

妊娠・出産・育児は大仕事だから「産休・育休がある」

～産休育休の「休」は自分の仕事を“休業”するということ

小学生の夏休みの「休」のように自由な時間がたっぷりあるわけではない～



河合(久保田)寿子
理学部
准教授

産休・育休取得期間

1回目：4ヶ月+時短勤務2ヶ月

・産休

(2014.07 -2014.10)

・研究再開準備支援期間(学振の制度)

(2014.11.-2014.12)

2回目：産休4ヶ月

(2019.02.-2019.06)

出産

2014.08 (第1子)

2019.04 (第2子)



【産休・育休に入るまで】第二子妊娠がわかったのは、山形大学の面接が終わり、内定をいただいたばかりの2018年秋でした。第二子の時は特に悪阻がひどく(例えるなら人生最悪の二日酔いが180日間続いている状態)、吐きすぎて喉が切れて血を吐き水も飲めずに点滴していたので、着任の時期は相談させていただきました。妊娠・授乳期間中は女性労働基準規則第2条第1項にある業務や実験試薬の使用は禁止されていますが、私たちの分野でよく使用するものがいくつもありました。そのため、着任後も「どんどん実験を進めるぞ!」ということではできないスロースタートでした。着任時はテニユアトラック助教であったため、講義や卒研生の担当はありませんでした。そのため、代わりの担当を探したりする必要はなかったです。妊娠29週で高位破水し、新生児集中治療管理室がある病院に救急車で搬送、点滴で子宮収縮をおさえるためICU 母体胎児集中治療室に入院。妊娠発覚前に植物生理学会のシンポジウムでの講演を依頼されていたので、準備をせねばと思い看護師さんに「パソコン持ち込んでいいですか」と聞き「上半身を起こすのも危険な状態なのに、とんでもない!」と非常に怒られました。妊娠発覚後も「第一子の時は産休に入ったあと出産直前まで家で論文の図を作成するなど元気だったので、第二子の時も大丈夫だろう」と高を括っていましたが、結局、共著者に代理を頼むこととなってしまいました。妊娠がわかったら「もし自分が何もできなくなったら」を想定して、代打を頼む可能性がある人には早めに伝えておくほうが良いと悟りました。

【産休・育休に入ってから】「産休中にリモート卒研指導はやっていいの?」...まず、法的に「やってはいけない」し、私の答えも「×」です。回復が順調で、産後休暇明けには、結晶学会の発表を控えていた私なら「やればいいんじゃない?」と思っていたかもしれませんが、しかし、第二子の時は悲惨でした。「第二子の出産は楽だよ!」と言われていたにもかかわらず、旋回異常で反対を向いて出てこようとしていたため地獄の苦しみでした。昔、大腿骨を骨折したことがあり現在は人工骨なのですが、その時と比べ物にならないほど苦しみました。おかげで産後は血圧の制御ができなくなり、咳一つするだけで血圧が180以上になり何時間も激しい頭痛で苦しむ地獄のような日々が続きました。生きているだけで精一杯でした。当時、卒研生はいませんが、もし卒研生がいたら...「産休期間にリモートで卒研生の面倒をみる」ということは到底不可能でした。妊娠・出産は同じ母体でも毎回違うということを感じました。妊婦を街中でよく見かけるから「自分も大丈夫だろう」「職場のあの人も大丈夫なんだろう」という単純なものではありません。そもそも!健康な妊婦しか外に出られないのです!外で見かける妊婦はラッキーなことに健康ただけです。妊娠には様々なリスクが伴います。産科合併症は全妊産婦の54.8%に発生する(日本産科婦人科学会)という報告もあり、健康ではない妊婦は外で見かけることができないだけで世の中にはたくさんいるのです。**産休・育休中のリスクリング(学び直し)が話題になっていますが...仕事を「休む」のは、命懸けで妊娠出産する母体保護のため、そして赤ん坊を育てるため。産休・育休が何のためにあるのか、想像力を働かせて考えることが必要かもしれません。**

【産休・育休が明けて】第一子が2歳になる頃まで夫と別居。生後2ヶ月で復帰した時は一人で育児。実家も遠く頼れる人はいない中、箕面市の保育園に落ち、一人で半泣きでひたすら保活。バスで片道2時間の隣の市(保育料補助がない!)でやっと受け入れてもらえる園をみつけ... (この話を始めると長くなるのでこのへんで...)。第二子を生後58日目から保育園に預けて復帰しましたが、体力が落ちすぎていて1日目は居室から実験室まで歩けませんでした。元気ってどういうことだっけ?妊娠、悪阻、流産、流産後の体調不良、再度妊娠、悪阻、切迫早産、壮絶な出産と、1年何ヶ月か続いた体調不良のため、元気な自分を思い出すことができないほどに弱っていました。産後ずっと一緒にいた赤ん坊を保育園に預ける寂しさもありました。それでも活気があるメンターのラボに行き、メンターの田村先生や学生さんと話をしながら少しずつ実験を進めるうちに自分の軸が戻ってきたように感じました。授乳期間中も使えない試薬が多く、みんなに協力してもらいながらの復帰でした。**【最後にひとこと】**妊娠・出産は大変でしたが、子育ては楽しいです!!